

## 家庭と連携して学びをすすめた 開智小学校

松本市立開智小学校では、家庭と連携して課題プリントに取り組む学習を課したり、課題プリントと動画などのオンライン学習を効果的に組み合わせたりして、児童の学びを進めることにより、通常の進度の70%程度の学習を進めることができました。

### ① 登校時と同じ進度表を家庭に配布することで計画的な学習を支援する

学校から、登校した場合と同じ進度で計画した1週間分の学習内容を記したプリント(右図)を配布しました。各家庭には「学習の時間帯やペースは家庭の都合に合わせて取り組む」ことを伝えました。

児童は、その日に取り組むプリントのページを理解し、わからないところがあったら次の分散登校の際に質問しようとするなど、計画的に学習に取り組みました。

登校時と同じように学習できる進度表を家庭にも配布し、分散登校時、課題の達成状況を把握できるようにすることで、児童には自律的に学習に取り組む姿勢が育ってきました。

【学習の計画について】		
23(木)~29(水)までの学習の例をお示しいたしました。できるだけ、毎日決まった時間に学習に向かう習慣がついたり、同じ位の学習量で積み重ねていかれるといいと思います。お子さんと相談しながら、以下の表も参考にして進めていただくとありがたいです。		
日(曜)	国 語	算 数
23(木)	① ひらがな練習「て」 ② 教科書「あつまってはなそう」 P12, 13 ③ 音読	① けいさんドリル「2」 「どきどきがっこう」 ② きょうかしょノート P4, 5
24(金)	① ひらがな練習「そ」 ② 教科書「あつまってはなそう」 P12, 13 (話す内容を変えて もう一度やりましょう) ③ 音読	① けいさんドリル「3」 「かすとすうじ」 ② きょうかしょノート P12, 13 (動画を見ながら進めましょ う。)
27(月)	① ひらがな練習「ろ」 ② 教科書「えんぴつとなかよし」 P14, 15 ③ 音読	① けいさんドリル「4」 「かすとすうじ」1~5までの数の復習 ② きょうかしょノート P8, 9

内容例) 1年生の「国語」と「算数」 ↑

### ② 保護者へ関わり方のヒントを掲載する

上記の取組には、家庭の協力が欠かせません。開智小学校では、学習プリントに保護者に向けて指導のヒントも掲載し、保護者とともに学習できる工夫もしました。



字で書く部分は、お家の方が書いてくださっても構いません。  
下のスペースに好きな食べ物や好きな事の絵を描いてみるのも楽しいですよ。

この時間に学習したことについて振り返ることで、より理解が深まることが多くあります。是非お家でも学習の振り返りの時間をとってみてください。「このべんきょうでどんなことがわかったかな？」などの問いかけをしてみてください。

保護者からは「家庭でもやるのが分かって安心。それぞれの時間のプリントにねらいが書いてあるのもうれしい。」といった感想が聞かれました。また、このプリントに問題に関連した動画のQRコードを載せたことにより、プリントと連動した動画を視聴することが容易になり児童の理解を一層深めることにつながりました。

こうした取組に加え、登校再開に備えて、一人一人の定着度合いを確実に見とどけることで、開智小学校では、通常時の学習進度を100%とした場合、家庭では進めにくい技能教科の内容を除き、70%程度学習を進めることができました。

## 教師と生徒、生徒同士、オンラインでつながる学び 白馬中学校

白馬村立白馬中学校では、臨時休業の間、生徒一人一人にタブレットを貸し出し、地域・学校・行政が力を結集して、構想からわずか 10 日で on-line 授業環境を整えました。その間、先生方は模擬授業などのオンライン授業の研修を複数回行うとともに、地域の協力を得ることにより、教師と生徒、生徒同士が双方向につながりあう対話のある学びが実現しました。

### オンライン授業で、先生と生徒・生徒同士の対話を生み出す

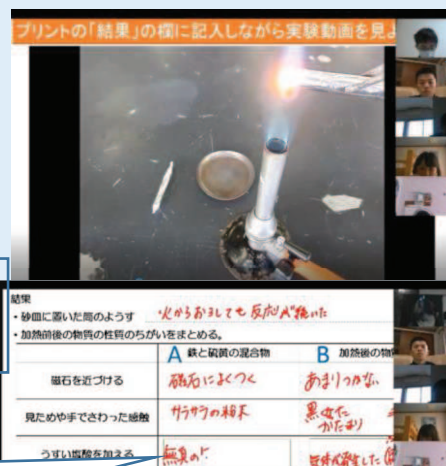
授業は、テレビ会議アプリを活用し、先生と生徒、生徒同士の対話を生み出すように展開しました。

#### 教師の関わり

- 教師の問いかけに生徒が答える
- 生徒からの質問に教師が答える
- グループでの話し合いに教師が参加し、対話を活性化させる

Aさんのグループでは、新しい意見が出ていましたね。このことについてどう思いますか？

B班の意見を画面上の学習カードに書いて、映してみます。全員で確かめましょう。



#### 生徒同士のつながり

多分こうなるんじゃないかな？

- 教師の問いかけや学習問題に対するお互いの考えを出し合う
- 話し合って課題に対する答えを形成する
- 分からないことについて他の生徒に教えてもらったり教えたりする

自分はこんなふうに考えてみましたが、どうですか？

よくわからないから教えて！

このような授業を体験した生徒は、次のような感想を持ちました。

- ・一人一人が考えたことを、ブレイクアウトセッション<sup>(※)</sup>で共有できるのが楽しかったです。教室で発言の少ない友達の考えにも触れることができ、新鮮でした。
- ・新型コロナの心配があっても、授業が受けられてうれしかったです。家にいても友達と学べることでがんばれました。
- ・実験の映像や資料などデジタル教材が黒板より見やすく、わかりやすかったです。画面を共有したり、グループ活動したりできるから、学校にいけない日でも一緒に学んでいると感じました。

※ブレイクアウトセッション…少人数グループでの自由な話し合い

### 行政やコミュニティスクール運営協議会(CS)のメンバーによる全面協力

白馬中学校でこうした取組がうまく進んだ背景には、生徒のために、地域・学校・行政が力を結集させたことがありました。

#### 行政

- ・端末の校外使用時制限解除
- ・補正予算による端末のフィルタリング設定

#### コミュニティスクール運営協議会

- ・Wi-Fi 環境下でない生徒(全校で 13 名)に休業中のホテルでの学習場所(地域 Wi-Fi 協カスポット)の提供
- ・タブレットや接続の不具合が生じた家庭からの要請を受け、家庭訪問とメンテナンス(ご自宅トラブルかけつけ隊)
- ・職員研修のために講師(東京都新渡戸文化学園)を紹介

白馬中学校では、オンライン授業により、つながり合ったことで、生徒の学びや先生方の意識が変化しました。生徒が主役になる学びをめざして、これからも取り組みたいと考えています。

## ホームページを窓口にしたオンライン学習の推進事例（大町岳陽高等学校）

### 1 ICTを活用した授業への取組

#### (1) 「Classi」の活用（1～3年）

- ①生徒へのアンケート、生徒からの個別質問等の受付、回答
  - ②授業プリントの配信、授業動画の配信
- ※4月から活用したが、接続が不安定等、問題点があった。

#### (2) 「学校ホームページ」の利用

Classiへの接続が安定しないことから、5月より自宅学習の特設ページ「思文堂の扉」を開設。メールにより特設ページのパスワードを生徒・保護者に通知し、利用の方法をホームページに掲載。

- ①学校ホームページのトップに設置した『学習支援ページ 思文堂の扉』に掲載されている時間割に沿って、オンラインにより提供する教材（動画・音声・プリント等）により各自で学習を進める。教科、科目により授業の方法は異なる。
- ②アクセスするとオンライン授業配信ページにつながり、各学年普通科、学究科に別れており、自分の学年学科をクリックすると、1週間分の時間割（1時間目から6時間目まで）が表示される。（①9:00～ ②10:00～ ③11:00～ ④13:00～ ⑤14:00～ ⑥15:00～）そこから各教科の課題へつながる形にした。5月11日、12日を試用期間とし、13日から本格実施とした。
- ③各教科課題の形式を以下のように統一した。
  - ・課題の内容についての指示文書を掲載（PDFファイル）
  - ・指示文書の中にリンクを貼り、「PowerPoint」「YouTube」等につなげ、授業を行う。
- ④時間割により、開始時間を設定してあるため、Zoomでの双方向型授業を行っている教科もある。

### 2 様々な方法での生徒への支援

校務分掌を超えた検討チーム（プロジェクトチーム）を立ち上げ、多方面から検討をした。

活用方法についての研修を実施し、各教科で「まずは出来るところから」始めた。インターネット環境が整わない生徒に対しては、①登校しての学習、②FAXでの課題配付を行い、分散登校時に添削指導等を行った。

### 3 特設ページ 『学習支援ページ思文堂の扉』



**オンライン授業/配信ページ**  
自分の学年学科をクリックして時間割へ。  
毎日がんばろう！

[1年普通科](#)      [1年学究科](#)

[2年普通科](#)      [2年学究科](#)

[3年普通科](#)      [3年学究科](#)

※時間割でリンクが設定されていない科目は準備中です。



## 臨時休業に伴う学習の状況について

学びの改革支援課

### 1 学習進捗の様子

休業なく5月末まで登校できていた時の通常の学習進捗を100%とした場合、5月末までに実際に学習できた進捗

校 種	小学校 357校	中学校 188校	高等学校 82校
全県平均 (%)	32.3	32.1	42.3
80%以上進めることができた学校数	12校 3%	13校 7%	3校 4%
20%以下の学校数	94校 27%	75校 40%	13校 16%

※小・中学校は、平均でおよそ4週（116時間程度）の遅れ  
 ※高等学校は、平均でおよそ3.5週（105時間程度）の遅れ

### 2 学習の遅れを取り戻すために各学校が検討している取組

項目	遠隔教育により学習を進める	夏季休業を短縮して授業日数を増やす	土曜日に補充授業を実施する	学校行事の中止や短縮等の見直しを行い授業時数を確保する	1単位時間を短縮して1日の授業数を増やす	放課後等の時間を活用して補習を実施する
小学校	49校 (14%)	346校 (97%)	7校 (2%)	350校 (98%)	97校 (27%)	68校 (19%)
中学校	30校 (16%)	179校 (95%)	10校 (5%)	182校 (97%)	70校 (37%)	54校 (29%)
高等学校	35校 (43%)	82校 (100%)	24校 (29%)	81校 (99%)	9校 (11%)	31校 (38%)

### 3 学習の遅れを取り戻しながら学びを保障する取組

#### (1) 授業時数の確保の工夫

詰め込み授業ではなく、「主体的・対話的で深い学び」の実現を考慮し、年間指導計画を再構成する。

- ① 学び方の工夫を考慮した上で、今後必要となる授業時数を算出する。
- ② 学校行事等を精選する。
- ③ 長期休業を短縮する。
- ④ 上記②③によっても授業時数の確保が難しい場合
  - ア 時間割を工夫した1日の授業時間増。
  - イ 土曜授業の実施。

#### (2) 学び方の工夫

- ① 学校で行う学習と家庭で行う学習とを関連させた学習指導計画を作成する。
  - ア 学校で行う学習…新しい知識・技能の習得、話し合い等でそれぞれの考えを交流、学習の振り返り（自己の学びの変容の確認、次の学習への動機付け等）。
  - イ 家庭で行う学習…予習として次の授業の課題に対する自分の考えをまとめる、学習した知識・技能を身に付ける、課題解決のために教科書や資料等を読んだり調べたりする。
- ② 動画を用いて家庭で予習し、学校の授業で解説・小テストを受ける。
- ③ 板書やノートの記録を工夫する。例えば、ICT機器の活用による板書、記録内容を精選したワークシートの作成、板書をプリントにして配布 など。
- ④ 授業を撮影した動画をクラウドに保存し、いつでも復習できるようにする。
- ⑤ 学習支援員を増員して、T.Tによる授業や補習を行う。
- ⑥ 学習内容の定着が不十分な児童生徒に対して個別に補習を行う。

# 「学びの継続計画」について（案）

## ～いつ臨時休業になっても学びを続けられるために～

学びの改革支援課

新型コロナウイルス感染症の影響により、今後も断続的な臨時休業が起こりうる状況にある。そのため、次にいつ臨時休業になっても、児童生徒の学びを保障するための準備を進めることが重要である。

そこで、臨時休業中にも児童生徒の学びを保障する「学びの継続計画」を作成し、各校が学びを止めないマネジメントを行う。

### 1 趣旨

**再び臨時休業になっても、児童生徒の学びが継続するよう、「自律して学ぶ力」を身に付けたアクティブ・ラーナーを育てる教育環境を整える**

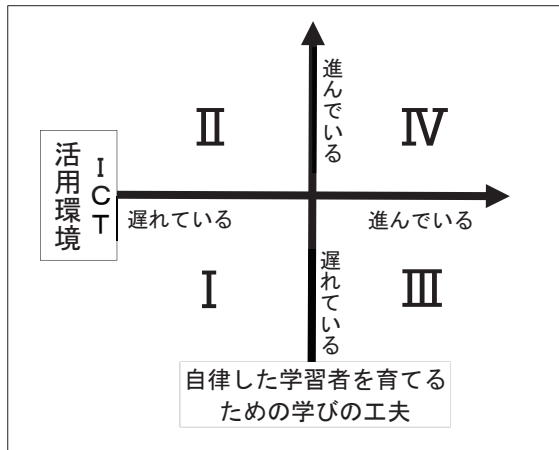
年度初めの臨時休業では、小中学校で約3割、高等学校で約4割の学習進捗にとどまった。再び臨時休業となった際には、遠隔学習を充実させて学習進捗100%を目指す。そのため、平常時における授業のあり方から見直していく。

### 2 「学びの継続計画」の作成手順例

手 順	具体例
<p>(1) 年度当初の臨時休業の成果や課題を、児童生徒、保護者、教職員からアンケートで収集する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>3者へ同じ内容をアンケートすると、機能した点と機能していなかった点が明らかになる。</p> <p>(例) 過度な量を課さないよう調整したが、生徒の受け止めは違っていた。</p> </div>	<p>〈例 児童生徒に向けたアンケート項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業中は、自ら計画を立て学習を進められましたか。</li> <li>・学校から出された家庭学習の量はちょうどよい量でしたか。</li> <li>・ICT機器を使った家庭学習に意欲を持って取り組みましたか。</li> </ul> <p>〈例 保護者に向けたアンケート項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんは、自ら計画を立て学習を進めていましたか。</li> <li>・家庭学習の量はちょうどよい量でしたか。</li> <li>・お子さんは、ICT機器を用いた学習に意欲を持って取り組んでいましたか。</li> </ul> <p>〈例 教職員に向けたアンケート項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が計画を立てて学習を進められるよう工夫しましたか。</li> <li>・家庭学習について適当な量を課しましたか。</li> <li>・ICT機器を用いた家庭学習で意欲を持てるよう工夫しましたか。</li> </ul>
<p>(2) アンケート結果を基に、自校の現状を把握し、強みと弱みを整理する。</p>	<p>○ アンケート結果を集計したものを全教職員に配付し、臨時休業中に行った学校の対応や児童生徒の状況等を対話的に振り返る。</p> <p>〈対話的に振り返る例〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アンケートの集計結果について気付いたことや疑問を自由に出し合う。</li> <li>2. 気付きや疑問を同じような内容同士でまとめていく。</li> <li>3. 新型コロナウイルス感染症による学びの変化への対応とICT活用環境に関するものに分類し、自校がどの状況にあるかを把握し共有する。</li> <li>4. 自校の強みと弱みを見いだす。</li> </ol>
<p>(3) 弱みを補い、強みを伸ばす方策を教職員間で議論し、具体的に考える。</p>	<p>○ 自校の現在の状況を把握した上で、弱みを補い、強みを伸ばしていく方策について、例えば、「恒常対策（一人一台端末時代の授業に向けた準備）」と「緊急対策（準備中に臨時休業となった際の対策）」を具体的に考える。</p>
<p>(4) 「学びの継続計画」に整理してまとめ、学校・児童生徒・保護者等と共有する。</p>	<p>○ 「学びの継続計画」について簡易的にでもまとめておく。</p> <p>○ 「学びの継続計画」を基に諸準備を進める。</p> <p>○ 継続的な評価・改善が進むよう、職員会議やPTA、学校運営協議会等の機会を適宜活用し、「学びの継続計画」に係るPDCAサイクルを構築する。</p>

### 3 自校の状況把握と対策の考案

(1) 自校の状況が下図のどのフェーズにあるか把握する。



- I : ICT活用環境も、学びの工夫も遅れている
- II : ICT活用環境は遅れているが、学びの工夫は進んでいる
- III : ICT活用環境は進んでいるが、学びの工夫は遅れている
- IV : ICT活用環境も、学びの工夫も進んでいる

(2) 各フェーズにおける「恒常対策」と「緊急対策」について具体策を考案する。

フェーズ	恒常対策：中長期的な準備・対応 (一人一台端末時代の授業に向けて)	緊急対策：短期的な準備・対応 (準備中に臨時休業となった際の対策)
各フェーズに共通する対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常時における授業の見直しをする</li> <li>・ 児童生徒の家庭にある ICT 環境を調査する</li> <li>・ ICT 環境のない児童生徒がオンラインで学べる場を確保する</li> <li>・ 教職員の ICT スキル向上の研修を行う</li> <li>・ スマホの利用規則やセキュリティ等を見直す</li> <li>・ 休業時の「学びの変化への対応」学習会を行う</li> <li>・ 個別支援が必要な児童生徒への対応を研究する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自校の実態に即した遠隔学習を推進する</li> <li>・ 児童生徒や保護者が見通しをもって学習を進められるよう 1 週間分の学習計画を提示する</li> <li>・ 自校の実態に即して ICT 機器を貸出す</li> <li>・ ICT 環境のない児童生徒が学べる場を提供する</li> <li>・ 自律した学習者を育てる学びの工夫に対する諸対応を行う</li> <li>・ 個別支援が必要な児童生徒へ対応する</li> </ul>
I ICT活用環境も、学びの工夫も遅れている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭での学習を回収し、添削して補習するサイクルを確立する</li> <li>・ 学年内の学習進度が揃うよう、指導計画を見直し改善して共有する</li> <li>・ Web 会議システムを使って児童生徒とやり取りできるように研修を実施する</li> <li>・ 各家庭の ICT 環境調査を基に、機器の貸出計画を作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙媒体での課題を郵送したり電話やメールを活用したりして学習指導を行う</li> <li>・ 家庭学習の課題を集めて確認し、分散登校の際に補充指導を行う</li> <li>・ ICT 環境が整っていない家庭への機器の貸出や、依頼しておいた公共施設等でのオンライン学習を行う</li> </ul>
II ICT活用環境は遅れているが、学びの工夫は進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習として課す課題を基に、授業では協働的に学ぶ授業計画を立案する</li> <li>・ Web 会議システムを用いて児童生徒が探究的に学べるよう研修を実施する</li> <li>・ 臨時休業になったら活用できる学習支援動画等の情報を集約する</li> <li>・ 各家庭の ICT 環境調査を基に、機器の貸出計画を作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭での予習と分散登校での対面指導を組み合わせた学習指導を行う</li> <li>・ 家庭訪問や電話等で児童生徒の学習状況を把握し、補充指導を行う</li> <li>・ ICT 環境が整っていない家庭への機器の貸出や、依頼しておいた公共施設等でのオンライン学習を行う</li> </ul>
III ICT活用環境は進んでいるが、学びの工夫は遅れている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web 上での学習プリントのやり取りやオンラインでの協働的な学びの研修を実施する</li> <li>・ 学年内の学習進度が揃うよう、指導計画を見直し改善して共有する</li> <li>・ 予習用の授業動画を配信し、学校では協働的に学べるよう、授業計画を見直す</li> <li>・ ICT 機器をいつでも貸し出せるよう準備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web 上のコンテンツや授業動画を活用して学習指導を行う</li> <li>・ Web 会議システムを活用した学習内容の解説や質疑応答、学習状況の把握を行う</li> <li>・ ICT 環境が整っていない家庭へ機器を貸出す</li> </ul>
IV ICT活用環境も、学びの工夫も進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を撮影した動画をクラウドへ保存し、いつでも復習できるようにする</li> <li>・ オンラインの協働的な学びを実現できるよう、日常の授業から双方向で考えを交流し合う学びを推進する</li> <li>・ ICT 機器をいつでも貸し出せるよう準備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業動画を配信して学習を進める</li> <li>・ Web 会議システムを用いて、同時双方向型授業を進める</li> <li>・ Google 等を用いた探究的な学習を推進する</li> <li>・ ICT 環境が整っていない家庭へ機器を貸出す</li> </ul>

## 「学びの継続計画」の例（フェーズⅠの中学校または高等学校の例）

### 1 学びの継続方針

臨時休校、分散登校等、どのような状況になっても学びを止めず、生徒が「自律して学ぶ力」を身に付けられる学習環境を整える。

### 2 現状把握

	ICT 活用環境・教員の ICT スキルの現状	自律した学習者を育むための学びの工夫
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>卓越したスキルを持つ教員がいる。</li> <li>生徒に応じた学習プリントを作成できる。</li> <li>機器整備が進んだ時を想定して、校内研修を行っている。また、現状でできることを研究している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個別の学力に応じた家庭学習を課している。</li> <li>紙媒体による学習計画・報告、課題が定期的・計画的に出されている。</li> <li>学びの過程で生じた新たな疑問を課題として学習できる。</li> </ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の教員のみが ICT を活用していて、温度差や格差がある。</li> <li>オンラインによる効果的な授業方法を知らない。</li> <li>ICT 機器の未整備を理由にオンライン学習に苦手意識を持っている教員がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員一律の課題を課している。</li> <li>出席すること、課題を出すことで修得したとみなし、定着の確認をあまりしていない。</li> <li>与えた課題だけの対応にとどまり、生徒が自ら探究する学びができていない。</li> </ul>

### 3 学びの継続のために準備しておくこと

ICT 活用環境・教員の ICT スキル向上	自律した学習者を育むための学びの工夫
①全生徒の家庭における ICT 環境を調査 ②家庭に Wi-Fi 環境がない生徒が学べる校外の場の確保（公共施設、自宅から近い学校等） ③全教員がハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術の基礎知識の習得 ④動画作成、双方向型授業のやり方等を校内研修で実践的に交流 ⑤ID 取得後の Google でできることの研究 ⑥学校で共通して活用する ICT の操作マニュアルの作成、共有（生徒の端末利用のルール等） ⑦教材をデータ化し共有 ⑧ICT 支援員の配置、活用法の研究 ⑨情報化推進担当の教員は、ICT スキル向上に専念	①ICT を使うこと以外の学習指導のあり方についての研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>何を家庭で、何を学校で学習するかを明確化</li> <li>一斉授業ではない授業計画</li> <li>反転学習と対面・オンライン授業の組合せ</li> <li>グループだけでなく、個人を主とした探究学習の研究</li> <li>少人数、短時間で学べる個別最適化の授業展開</li> </ul> ②生徒や保護者の ICT スキル向上のためのガイダンスの実施 ③地域社会の発展・貢献につながる協働的、探究的な学びをさらに促進

### 4 再び臨時休業になった際の学びの継続

段階	遠隔学習の内容	学習状況の把握方法
休業が家庭の ICT 活用環境の整備前	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭に機器がない場合は貸し出し、Wi-Fi 環境が整備された公共施設や近隣校等で学べるようにする</li> <li>紙媒体により、電話、メール、郵送等を活用した指導</li> <li>Google、Classi 等の活用</li> <li>プリント課題と動画（短時間）配信の併用</li> <li>スマホでの視聴を前提とした教材（動画）作成</li> <li>プリント課題の工夫（例題＋演習など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙媒体（レポート）の提出、取組状況の把握</li> <li>小テストの実施</li> <li>学習計画書、学習記録の提出</li> <li>分散登校による個別指導の充実</li> </ul>
休業が家庭の ICT 活用環境の整備後	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン、タブレット、Wi-Fi 環境のない生徒に機器を貸し出す</li> <li>Web 会議システムを活用した双方向型授業の実施</li> <li>双方向型 SHR（決まった時間に）</li> <li>オンデマンド授業（YouTube）</li> <li>Google、Classi 等で探究的な課題や演習を配信</li> <li>自分で学ぶ教材を選べるようにする</li> <li>少人数グループでのオンラインによる話し合い</li> <li>双方向型とオンデマンドを組合せた学習スタイルの確立</li> <li>時間割をつくり、取り組む時間を決めた学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>双方向型通信による聞き取り</li> <li>個別指導＋双方向型授業（オンライン）＋オンラインテスト（Google のアンケート機能利用）</li> <li>口頭試問</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>クラウドやアンケート機能を活用した課題の回収</li> </ul>



### 個別に最適化された方法で学ぶ

○自分に最適化された方法で学ぶ ○修得主義

### 違う場所で違うペースで学ぶ

○自分のペースで学ぶ

### 同じ場所で

### 同じペースで学ぶ

○教師の説明を聞いて学ぶ  
○履修主義

学び方

# 学びの改革

### 答えに導く授業

○知識をどれだけ獲得したかを問う

授業

### ビフォー・コロナ

### 習得する力

○知識・技能の習得

学力

### 学校で学ぶ

○教室で学ぶ  
○教師から子どもへの対面指導

学ぶ場

### 長期休業による 授業の変化

○ICTの活用による学びの継続  
○「学校ならではの学び」の再認識  
・家庭で学べること  
・学校でしか学べないこと  
・教師の役割

### ウィズ・コロナ

### 自律して学ぶ力

○自ら計画を立てて学ぶ力の涵養

### 社会に開かれた学校で学ぶ

○家庭や地域と「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を再共有

### 自ら問いを立て

### 答えを見いだす授業

○様々な人と協働し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成



### アフター・コロナ

### 探究する力

○学びに向かう力に支えられ、習得した知識・技能を基に思考・判断・表現し、新たな知を構築する力

